

毎日150人の作業員が連携し 東西線仙台駅を建設しています

東西線の中心駅であり、JRや地下鉄南北線、路線バス等との交通結節点となる仙台駅。1日2万7千人の利用が見込まれる東西線最大の駅建設現場取材しました。



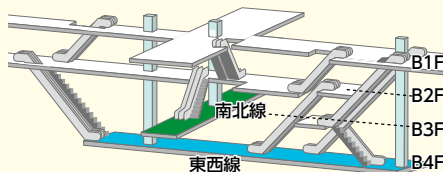
▲仙台駅建設を手掛ける近内所長（左）と稲留さん。「仙台の顔にふさわしい、明るく、洗練された空間を作りたいです」



▲工事中の駅構内。ホームへ続くエスカレーターの天井(上)は、仙台七夕の吹き流しをイメージ

地下鉄東西線

仙台駅は、南北線仙台駅の下に、90度交差した形で建設されています。ホーム階は地下4階で、地下3階の南北線とは地下2階を介して乗り継ぎ可能。また、新設する東側出口からJR仙台駅の地下改札までは、徒歩1分という近さです。



工事を請け負う共同企業体の仙台駅建築工事作業所・近内幸信作業所長は「現在はトンネルと駅舎を支える躯体（鉄筋コンクリートによる骨組み）が完成し、壁・床の仕上げ工事、電気、空調などの設備工事を進めています。私たちの



▲いよいよ総仕上げの段階

の他に、30を超える専門業者がこのプロジェクトに携わっています。各業者が連携し、スムーズに作業できるように、毎日の打ち合わせを行うなど、コミュニケーションを大切にしています」と話します。



▲狭い空間で効率的に作業するため、資材はキャスターに乗せられています

地上での建築工事と異なり、資材の仮置き場がないのが特徴、と語るのは、監理技術者の稲留英毅さんです。「必要な資材や機材はその都度運び、2カ所に設置した約3メートル四方の搬入口から投入します。エスカレーター等の大きなものも分解して入れますよ。搬入作業は毎日分刻みで管理していて、全体の作業工程を把握しながら、適切な量と置き場所を判断しています」と教えてくれました。現在の完成度は約60パーセント。開業まで、作業は急ピッチで進みます。